

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4098700117
法人名	社会福祉法人光輪会
事業所名	グループホーム恵のいえ
所在地	福岡県みやま市高田町濃施字濃施北501-3
自己評価作成日	平成27年1月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益財団法人 福岡県メディカルセンター		
所在地	福岡市博多区博多駅南2丁目9番30号		
訪問調査日	平成27年2月10日	評価結果確定日	平成27年3月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

みやま市高田町の中心部に位置しています。交通の便利もよく、JR、西鉄電車の駅からも近いです。南側にはココラ病院、外来診察、訪問診察でもお世話になっています。24時間、いつでも診てもらえる安心感があります。近隣には食料品店、菓子店、図書館などがあり利用者との買い物に行くのも便利です。ボランティアによる訪問も、利用者の楽しみの一つです。利用者の笑顔を大切に・・・利用者の声に耳を傾ける・・・利用者目線で物事を考える・・・こういうホーム作りを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

経営母体は設立30年になる社会福祉法人である。施設介護を中心としてきたが、介護を受けながらも自立した生活をしていただける場を提供したいと、昨年4月に開所された。協力医療機関も近くにあり、緊急時の協力体制も充分である。ホーム内は吹き抜けになっており、居間は広く、静かでゆっくりとくつろげる場所になっている。リビングと食堂を取り囲むように居室があり、職員の目が行き届きやすいようにレイアウトしている。職員は明るく、それぞれ利用者の個性に配慮した言葉かけを行い、利用者、家族ともに安心できる環境の事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼時に全員で唱和して、理念の共有と、実践に努めている。	毎朝のミーティングにて職員全員で事業所理念を唱和し、理念に基づいた介護サービスが提供できるよう、日々努力している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に事業所として加入し、地域の町内清掃など地域住民との交流に努めている。	町内会に加入しており、地域行事の清掃や夏祭り、小学校音楽祭へ参加したり、また、高等学校書道部の訪問を受けたりして、活発に地域との交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティア、花火大会、夏祭りなどを通じて地域の方たちも参加してもらい、接すること交流を持つことで認知症の理解を深めてもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入所者の近況報告、行事計画を報告し、質疑応答を行い、その中で居室内の環境や施設者対策などの意見をいただき、実践してきました。	2ヶ月に1回開催し、地域代表・家族代表・市担当者などが参加している。利用者や行事などについての報告を行い、また、事業所の課題などを積極的に出してもらい、ホームの運営に活かせるようにしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域密着型サービス事業者連絡協議会、運営推進会議などの場を活用しながら、意見交換や協力関係を築くようにしている。	事業者協議会などで市の担当者に相談したり、福祉フェスタの実行委員として運営に携わったりして協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人の研修会に参加して周知はしている。玄関の出入り口にチャイムをつけ昼間は施錠していない。	身体拘束基本方針が定められており、全職員は身体拘束のリスクを十分に理解している。また、言葉の拘束にも注意し、利用者の自由を侵害しないように努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人の研修会に参加して周知はしている。日ごろから防止に努めている。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	パンフレットを準備している。いつでも該当者がいれば、対応できるようにしている。	外部研修への参加及び内部研修を開催しており、職員は資料を基に説明できる状態である。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前の説明はもちろん、重要事項などの改定の時でも説明を行い、書面を作成し家族の理解・納得を得ている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を玄関に置いています。面会時には様子を説明し、希望等があれば運営に反映させるようにしている。	家族面会時や家族会などで、話を聞く機会を設けている。意見などがあればスタッフミーティングで話し合い、日々のケアに活かしている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝礼・終礼時はもちろん、週に1回は職員ミーティングを行い提案事項などの意見を出せる場としている。	管理者は、職員が働きやすい職場となるようミーティングを行い、話を聞く機会を設けている。また、日頃より声かけを行って話しやすい関係を作り、共にケアの充実を目指すように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に1回、勤務実績、能力などを精査・評価を行い、賞与に反映させることとしている。各自が向上心をもって働けるように努めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用については、公正に試験を行っている。また職員個々の能力が発揮できるような外部研修・内部研修を行い職員の資質の向上に努めている。	職員の採用時には資格や年齢、性別による排除は行っておらず、働く意欲や人柄を重視している。また、研修参加や資格取得への支援も含め、スキルアップや自己実現につながるよう配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	法人の研修会に参加して周知している。人権を尊重するための教育に努めている。	管理者研修の資料を基に、定期的に人権教育を行っている。また、出席できない職員については伝達講習を開き、人権に対する意識を高めている。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務年数に応じて外部・内部研修を計画し、計画的に参加するようにしている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	協力病院の地域交流会、事業者連絡会、研修会に参加させ、ネットワークづくり、質の向上に努めている。		
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に見学をしてもらい、面談をしている。これからの住まいの説明をすることで安心されるように努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前はもちろん、入所後も本人・家族と面談をしながら、関係づくりに努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族に尋ねて、何が必要かを確認して対応するようにしている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な生活とその人の生活リズムを把握し、何でも話せる信頼関係、生活のパートナーとなれるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の予定表、新聞、写真等を配布し生活の様子、時には行事への参加を促し関係づくりに努めている。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	夫の位牌や思い出の写真等を、お部屋に飾ったり、デイサービスセンターの利用者を行事に招待し接点を持てるように努めている。	ホームに友人や馴染みの人、民生委員が訪ねてくるなど、今までの関係が途切れないよう支援に努めている。また、近隣の方にも声かけをし、面会の機会が増えるよう働きかけている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションなど利用者同士が関わられるプログラムを準備している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された場合は面会に行き、お身体の様子を確認、家族とも連絡を取り合い、経過に応じた対応ができるように努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人、家族と定期的な面談を行い希望や意向の把握に努めている。	日常の関わりの中での会話や表情、行動から利用者の思いや意向の把握に努めている。また、利用者一人ひとりに担当を決め、より深く意向の把握ができるようにしている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントにより情報を収集し、生活環境を整えるように努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	24時間の生活シートを作成し、個の生活を大切にするようにしている。現状把握も朝礼、終礼、ミーティングの場を使い情報の共有に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	随時、又は3ヶ月から6ヶ月に一度は計画を見直し、家族・本人等の意見を反映する介護計画を作成している。	担当者がモニタリングを行い、それを基に職員間のカンファレンスで利用者や家族の意向を確認しながら、介護計画書を作成している。また、状態の変化があれば、その都度介護計画書を見直している。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	パソコンのソフトを使い、食事、排泄、入浴等の項目、生活の様子を記録している。職員も自由に閲覧できるので情報の共有、計画見直しに活用している。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ボランティアの活用、近隣行事（運動会・餅つき・文化祭など）へ参加など外部のサービスも取り入れている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	登録ボランティアに協力してもらっている。本人の楽しみ作り、趣味作りに生かしている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	全員に主治医を持ち、定期的に家族による通院、往診を受けている。その結果は医師と連絡をとりあい、日々の健康管理に努めている。	利用者及び家族の希望を大切にしている。経営母体が病院であることから、利用者が安心して適切な治療を受けられるよう支援している。他科への通院は、基本的には家族が付き添うが、無理な場合は職員が付き添っている。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎朝、随時のバイタル測定で利用者より聞き取りをしている。内容と情報は介護、看護職員での情報交換を行い、早期発見・早期治療に努めている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には面会に行き、病棟スタッフ、連携室と情報交換を行い、退院後にも対応が迅速に進むように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	協力病院や関連施設の特別養護老人ホームなどの協力を得ながらチームで対応できるように努めている。家族や本人の希望を尊重したケアを主治医と相談しながら行っている。	母体である病院が隣接している事と医療経験を持った職員が多いことから、重度化や終末期の支援の力量としては高いものはあるが、利用者、家族と方針が共有されていない。	利用者及び家族の関心と不安のひとつが、重度化した場合の対応のあり方であり、できるだけ早期から話し合い、方針の統一を図ることが望まれる。
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	対応マニュアルを整備しており、さらに実践でも対応できるように研修を行っている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防署の協力を仰ぎながら避難訓練を行い、避難の方法、連絡方法を職員間で共有している。自動通報装置を使い地域、関連施設からの応援体制も整えている。	消防署の指導の下、夜間想定を含む年2回の避難訓練を実施している。母体病院の職員の応援が得られるよう連絡網を作成し、協力体制が取れるようにしている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	敬語を常に心がけている。話すときも同じ目線。人格・プライバシーを損ねない言葉かけを心がけている。尚、職員倫理規定を掲示し、常に職員が意識して行動するようにしている。	一人ひとりの誇りやプライバシーを確保するよう、声かけや部屋への入室時など、常に気配りをしている。ケア中に不適切な言動などが見られた場合、管理者がその場の様子を見ながらアドバイスをしている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お話しをしながら、本人の希望を聴いたり、その旨を家族へ説明し、なるべく意向がかなうようにしている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人へ尋ね、希望に添うよう支援をしている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝、化粧・洋服も好みを尋ねている。化粧品の購入、月1回の程度はカットを家族にお願いしたり、身だしなみの支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と利用者で、盛り付け・配膳・片づけなどを行っている。「和気藹々」と食事が楽しみとなるように努めている。	利用者の力量に応じて職員と一緒に盛り付けやテーブル拭きなどを行っているが、職員は支援のみとなっており利用者と一緒に食事をしていない。	利用者と職員との関係作りなどの点から、職員が利用者と同じ食卓を囲んで同じものを楽しく食べながら、さりげなく支援することが望まれる。
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が献立を作成し、水分量・摂取量なども記録している。医師の指示で麦茶やポカリスウェットを準備するなどしている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に歯磨き、うがいをしている。手直しの必要な利用者には、本人が磨いた後に、再度磨くようにしている。歯科往診で治療を受けることもある。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者毎の排泄記録表を作成し、排泄パターンを把握し、トイレへ案内をしている。排泄自立へ向けて努めている。	排泄チェック表を利用しており、個人の排泄パターンを把握している。時間を見計らってトイレへの誘導を行ったり、一人ひとりの排泄のサインを確認したりして、さりげない誘導を行っている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	お粥を準備するなど飲食物の工夫をしている。また、体操など身体を動かす内容を取り入れたり、腹部マッサージ、医師の指示で緩下剤を使うなど便秘予防に努めている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	週3回、または希望があれば毎日でも入れる環境は整えている。時間も午前・午後・夕食後など幅広く対応できるように努めている。	本人の希望や体調に合わせた入浴支援を行っている。また、同性支援を行っており、利用者の心情を察した支援に努めている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調をみながら休んでもらったり、個々人で休みたい時は、お部屋で休んでもらっている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	飲んでいる薬の「効能書」をファイルしている。職員がいつでも閲覧して確認できるように努めている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入所前に確認をするようにしている。仏壇にお参りをしたり、編み物・読書などをされます。楽しみ作り、気分転換の支援をしている。菜園で自家消費用の野菜作り等手伝ってもらったりしている。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	玄関前の散歩は自由に行かれます。職員が介助し図書館、買い物、資料館、公園など行くこともあります。また、家族の協力で外出することもある。	近隣の図書館やスーパーへ買い物に行くなど、日常的に外出を楽しめるように努めている。定期的に行くドライブでは、資料館やひまわり園に花を見に行くなど気分転換ができるよう図っている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金を自分で管理されている利用者もいます。外出の際にお土産を買ったりと用途は様々です。物を買う実感が得られるように支援している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の申し出にすぐに対応している。手紙も届いたら本人へ渡している。返事をすすめたり、やりとりができるよう代筆などの支援をしている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木材を材料として、天井も高く開放感がある。室内の装飾もステンドグラスを使い、目で見ても美しい空間になっている。花を飾ったり、季節感を出すように工夫をしている。	食堂兼居間は日当たりが良く、明るく清潔感のあるスペースとなっている。また床暖房が設置されており、常に心地よい温度に保たれている。居間の一角にはお雛様が飾られ、ゆっくり寛げる空間となっている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファを置き、皆さんでくつろげる空間にしている。テーブルでは、一人で手紙を書いたり、編み物をしたりされる。思い思いで過ごせるように工夫をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物を持ち込んでもらうようにしている。人形・思い出の写真などをレイアウトして居心地よく過ごせるように工夫をしている。	仏壇、家族の写真など、これまで使用してきた思い出の物が持ち込まれている。また、事業所で作成された作品も飾られている。利用者の好みが活かされた、居心地良く過ごせる居室となっている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は、バリアフリーになっている。リビングを囲むように、手すりを設置。トイレ、風呂場も同様です。玄関にはスロープを作り自立した生活が送れるように工夫している。		